令和7年度　筑西市立下館中学校グランドデザイン

いばらき教育プラン　基本理念　『活力があり、県民が日本一幸せな県』

茨城県教育目標
- □ ひとりひとりの能力を開発し 豊かな人間性をつちかう
- □ じょうぶな身体をつくり たくましい心を養う
- □ 郷土を愛し 協力しあう心を育てる

筑西市の学校教育目標
- □ 自ら学び自ら考え確かな学力を身につける
- □ 思いやりのある豊かな人間性をつちかう
- □ たくましく心身ともに健康な体をつくる

学校教育目標　力のある人間となれ

目指す学校像
- ・明るい学校
- ・きれいな学校
- ・楽しい学校
- ・地域に開かれた学校

「地域とともにある学校」
-地域から評価される学校を目指して-

目指す生徒像
- ・学ぶ意欲をもって主体的に学習する生徒
- ・多様性を認め、正しく判断し行動する生徒
- ・心身ともにたくましい生徒

「下中プライド」
下中生としての誇りと自覚を！

目指す教師像
- ・生徒の多様性を理解し、寄り添える教師
- ・生徒とともにある教師
- ・自分を磨き続ける教師
- ・信頼される教師

「下中プライド」
寄り添う　ぶれない　責任をとる

組織目標
すべての生徒が自己肯定感と自己有用感を基盤に、
主体的に学び・挑戦する力を伸ばす教育の実現

ー　よりタフに　よりグローバルに　ー
世界でいちばんタフな15歳になろう

□ 「よりタフに」 いかなる状況の中でも主体的に考え自主的に行動し、その姿勢を持続できる精神的なたくましさ
□ 「よりグローバルに」 他者とのつながりを大切にし、他者と自分との違いを知り、その違いを認め合う

生徒会テーマ
百花繚乱
ー互いを認め合い　たくましく
自分らしさが咲き誇る学校へー

本年度の重点目標
- ◇ 教職員による安心できる環境づくりと、生徒同士の絆を深める活動を通して、自己肯定感と自己有用感を高める。
- ◇ 保健・安全教育を充実させ、生徒が積極的に運動に取り組むことで、心身ともに健やかで強い生徒を育てる。
- ◇ ICTを効果的に活用することで、協働的な学びの環境を構築し、学びの楽しさと達成感を実感できる授業改善を行う。

研究主題
基礎的・基本的な知識及び技能が習得できる授業づくり
ー 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して ー

確かな学力を育む教育
- □ 個別最適化された学びを保障
  - ・「主体的・対話的」な学びへの授業改善
  - ・**「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」**の視点の徹底
  - ・ICTを日常的・効果的に活用した授業の実践
- □ 校内研修や各種訪問を通して、職員の授業に対する意識改革、資質向上を図る。
- □ 「**朝コミ**」を通して、生徒同士の絆づくりや根拠をもとに自分の考えを伝える力を育む。
- □ 1・3・5運動の励行等、学習規律の確立を図る。
- □ **自立と社会参加**に向けた特別支援教育の充実を図る。
- □ 授業における図書館利用と読書活動の推進

【授業が分かる】90%以上
【授業が楽しい】85%以上

豊かな心を育む教育
- □ 道徳科を要に、教育活動全体を通して、道徳的価値の理解を深め、実践力を育む。
- □ 「下中しぐさ」や朝のボランティア活動、自問清掃、あいさつ運動等、生徒会活動を活性化させ、自主自立(**「させられる」から「する」**)の精神や行動規律を育む。**「させる」から「支える」へ**
- □ いじめ撲滅に向けた**「君を守り隊」**の活動をより一層充実させ、思いやる心や行動できる勇気を培う。
- □ 不登校生徒への組織的な対応を強化する。
  (有機的連携)

【下中しぐさを意識して行動】90%以上
【学校が楽しい】　90%以上

健康で安全な生活習慣を育む教育
- □ 保健体育の充実を通して、健康増進や体力の向上を目指す態度を育む。
- □ 感染症予防に関する指導、薬物乱用防止教室及び性教育の充実を通して、健全な社会生活を送るための実践力を育む。
- □ 関係機関と連携した防犯・交通安全・防災教育の充実を通して、自分で判断し、自分で命を守る行動等を育む。
- □ 実態や目標に基づいた適切な部活動経営方針や部活動計画を作成し、スポーツや文化芸術に親しむ能力や態度を育む。

【交通事故・水の事故】0
【体力テスト】A+B　65%以上

機能的で協働的な組織体制(働き方改革)
- □ コンプライアンスの徹底　(当事者意識の涵養と違和感の共有)
  - ・コンプライアンス研修の充実　　・チームでの対応
  - ・風通しのよい温かい職場づくり
- □ 教育目標と連鎖したPDCA サイクルの確立と教員評価・人事評価の効果的な活用による資質・能力の向上及び組織の活性化
- □ 教育課程の工夫による効率化、関係諸機関との連携による働き方改革の実現
- □ コラボレーションプラットフォーム(Microsoft Teams)を活用した情報の共有化と効率化

1ヶ月の超過勤務80時間を超える職員の割合 0%

家庭や地域との連携
- □ HP、メール配信、学校だよりを通して積極的な情報発信
- □ 地域の人材や関係機関との連携を図った教育活動の工夫
- □ 保、幼、小、中、高、学びの連続性を円滑にするための連携会議等の充実
- □ PTA、教育後援会、地域人材、ボランティア等との積極的な連携
- □ 部活動において、**地域の人材の積極的な活用**
- □ **部活動地域展開**に向けた保護者・地域への周知

学校ホームページの更新率　週1回